

特別委員会活動報告 競馬事業調査特別委員会

競馬事業調査特別委員会は、6月4日の本会議において設置され、6月4日及び6月23日に委員会を開催しました。6月4日の委員会では、特別委員長及び副委員長の互選を行い、委員長には新田久治委員が、副委員長には遠藤敏委員が選任されました。

6月23日の委員会では市長及び担当職員の出席を求め、岩手競馬の現状について質疑を中心として調査いたしました。最初に競馬対策室から、平成21年度の損益(見込)額と平成22年度の運営状況等について説明を受けました。平成21年度の経常損益は1900万円の黒字を達成する見込みです。また平成22年度第1期(3/31)の売上高は92.5%です。

また岩手県競馬組合では平成22年度の事業運営のポイントとして、①魅力あるレースの提供、②広域委託発売の促進、③イベント・ネット発売の促進、④イブント・サービスの充実を掲げ取り組んでいきます。会議では、スターホース(注目馬)がないと魅力に欠けるといふ賞典費の問題や、他の地方競馬では行っていない月曜日開催をより推進することや、遠野市にある馬のトレーニングセンターを活用し名馬を育成する提案等、活発な質疑が行われました。

委員長の「今議会では継続審査とし閉会中も審査したい」という提案が全会一致で承認されました。

● 請願・陳情の審査内容 ●

受理番号	件名	審査内容	審査結果	所管常任委員	備考
請願第1号	最低賃金法の抜本改正と安定雇用の創出、中小企業支援策の拡充・強化についての請願	安定雇用の創出と最低賃金の改善、中小企業支援等の対策が非常に重要であるが、商工会等の団体への聞き取りを行い、市内等の現在の状況を把握することが必要であることから、継続審査	継続審査	産経	業済
請願第2号	転作物の補償水準下落に対応し、市単独での補償を求める請願	「米戸別所得補償モデル事業」や「水田利活用自給力向上事業」が動き出しており、転作物については、「水田利活用自給力向上事業」で補償されることになるが、多くの作物で補償水準が減額され、「激変緩和措置」で、ある程度緩和されるが、全体として減額の傾向にある。市として支援する施策を行う姿勢は重要との認識はあるが、補償割合、補償範囲の決定、市の財源等から考察すると、実行性は非常に困難であるとの観点から、不採択	不採択	産経	業済
請願第3号	米価の下落に歯止めをかけ、再生産できる米価の実現を求める請願	来年度以降の戸別所得補償に先立つ「米戸別所得補償モデル事業」、「水田利活用自給力向上事業」がスタートし、米の需給と価格の安定に政府が責任をもたないもとの所得補償が実施されることにより価格破壊や買ったたきのおそれがあり、また、米価が下落している今、国産米を圧迫している外米の輸入を削減し、米価の下落に歯止めをかけ、価格と需給を安定させる対策を求める必要があるとの観点から、採択	採択	産経	業済 意見書提出
請願第4号	民間保育所運営費の一般財源化反対についての請願	民間保育所運営費が一般財源化された場合、市町村の財政状況によっては運営費が削減され、安全・安心の保育が保障されなくなることが憂慮されるとの観点から、採択	採択	教厚	育生 意見書提出
陳情第5号	電気工事のご指名についての陳情	市営建設工事請負資格者数の増加とそれに伴う市外業者落札率の増加、さらに長引く景気低迷による受注機会の減少等により企業存続が危惧されるとの観点から、採択	採択	総務	